

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	令和6年度 【第3回足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和7年2月27日（木）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	都立花畑学園
出席者	小谷 博子部会長 榮 幸世委員 小長井 亜希子委員 寺山 早苗委員 相澤 まり子委員 川松 佳緒里委員 古里 宏子委員 河野 正恵委員 石原 雅子委員 山本 克広委員 佐野 紘己オブザーバー（うめだ・あけぼの学園副園長） 高橋 徹 オブザーバー（こども家庭相談課 課長） 傳野 千世オブザーバー（東部保健センター）
欠席者	相澤 政子委員 酒井 康年委員 池村 愛委員 辰田 雄一委員 岩松 朋子委員
会議次第	1 開会 （1）障がい福祉センター所長挨拶 （2）経過報告 2 議事 （1）部会長挨拶 （2）協議 （3）事務連絡 3 閉会
資料	1 こども部会次第（裏面 席次） 2 東京都立花畑学園学校紹介
その他	公開状況：公開 傍聴：5名

様式第2号（第3条関係）

1 開会

【司会】

定刻になりました。ただいまより第3回足立区地域自立支援協議会こども部会を開催いたします。本日はお忙しい中、こども部会にご出席いただき誠にありがとうございます。

進行を務めさせていただきます、障がい福祉センター職員の藤ノ木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の協議会ですが、発言、会議内容及び発言者名などを後日議事録として公開いたします。また議事録作成のため、事務局にて録音をさせていただいております。協議会は公開しており、傍聴席を設けておりますことを、ご了承願います。

第3回開催にあたり、障がい福祉センター所長 山本よりご挨拶をさせていただきます。

（1）障がい福祉センター所長挨拶

【山本委員（障がい福祉センター）】

みなさま、こんにちは。障がい福祉センターあしすと所長の山本でございます。本日は早いもので、地域自立支援協議会こども部会も1年を経過しました。会期が2年の折り返し地点ということになりましたので、最後まで忌憚のない意見交換等お願いいたします。その前に、立派なこの施設の見学を設定していただいた花畑学園さんありがとうございました。充実した設備とたくさんのお子さんが教育を受けているところを拝見しました。地域に都立、区立、民間とさまざまな施設が地域資源としてあることは素晴らしいと感じた次第です。

本日は来年度に向けての話し合いもできればと思っておりますので、最後までどう

ぞよろしくお願いいたします。

2 議事

（1）報告

【経過報告】

続きまして、私より、こども部会のこれまでの経過報告をさせていただきます。今年度のこども部会ですが、今期の始めの年であり、本日はその折り返し地点となります。

今年度の重点課題といたしまして、各機関の活動内容等について情報共有し、「横の連携」をテーマに、顔の見えるつながりについて検討いたしました。

部会の会場を委員の所属機関で実施することで、施設を理解し、より深い議論につなげていく、という目的のもと、今回は東京未来大学、今回は都立花畑学園にて先ほど施設見学をさせていただきました。ありがとうございました。

障がい福祉センターで行った第1回の部会では、各委員の所属の紹介や課題と考えることについて、また、福祉まるごと相談課や新規に開設する児童発達支援センター、こども支援センターげんき館内で活動をスタートしたペアレントメンターについての情報交換・情報共有を行いました。

第2回目の部会では、協議時間外に施設見学会やランチミーティングを実施いたしました。実際に東京未来大学に行くことで、大学に着くまでの道のりも体験し、駅から大学までのルートの問題点にも委員それぞれの気づきがありました。協議会の中では『第4回日本小児リハビリテーション医学会学術集会“誰ひとり取り残さない未来のために”』についての報告を交え、不登校やヤングケアラーについての話題を取り上げ、話し合いを実施いたしました。

第3回、今回の部会ですが、テーマである

『横の連携』や『顔の見えるつながり』について、今年度としてのまとめと、次年度に向け話し合う内容、論点も明確に提示し、皆様と共有できればと思っております。

簡単ではございますが、以上を経過報告とさせていただきます。

続きまして本日の議事に入らせていただきます。

東京未来大学小谷部会長にご挨拶をいただき、ここからの議事の進行をお願いいたします。部会長であります東京未来大学小谷先生、よろしくお願いいたします。

(2) 協議

【小谷部会長（東京未来大学）】

東京未来大学の小谷です。今日は花畑学園を会場に開催させていただきまして、ありがとうございます。東京未来大学の学生がここにボランティアに来ていただいたり、逆に校外学習という形で来ていただいたり、お子さんたちの様子を再び見ることができてとてもうれしく思っています。また、会場をかえていくことによって横のつながりができたという1年でした。2回目を東京未来大学で開催した際に、終了後ねっとワーキングの川松委員と話をして「交流会をしたい」ということでしたので、「大学を使いませんか」とご提案して、2月11日に実現しました。お子さんだった方たちが成人して、懐かしく同窓会をされたり、保護者の方々が交流を深めたりという様子を見せていただき学生たちも勉強になりました。私たちも今後どのように支援をしていくべきかを考えさせられる一日でした。今年、はじめてこういうかたちになったんですが、すごく良かったので来年はさらに良いものにしたいと思っています。今日、

来年に向けてのお話を伺えればと思います。また、うれしい報告として、堀切駅が今度バリアフリー化が決まりました。ありがとうございます。みなさんにもっと来ていただける大学になればと思っています。この場をもっと広げて、どんな子どもが生まれても安心して子育てができて、成人して、自分たちが老いても安心して子育てできる社会をつくっていきたいと思っています。ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。

(傍聴者紹介)

【小谷部会長（東京未来大学）】

まず、施設見学をされてどんなことをお感じになったかということをお聞かせください。

【相澤まり子委員（ハートぽっぽEAST）】

ここから徒歩で5分位のところで、放課後等デイサービスをしています。花畑学園の肢体不自由部門のお子さんが100%という、放課後等デイサービスです。いつも行事や学校公開などの機会に参加していますので、今日も何十回目かの見学となりました。あらためて先生方のお子さんたちへの取り組みがすごく勉強になりました。私たちは学校の情報を共有しながら支援する立場なので、今後も情報共有しながら支援していきたいです。今日はありがとうございました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

障がいのある子は今までコミュニケーションがとりにくく、意思が伝わらない状況でしたが、視線入力やジェスチャーなどを使って、自分の意思が伝えられるようになりました。それで、ずっと静かにしていたお子さんが自分で手を挙げられるようになり、

人とコミュニケーションをとることが自分もできるということを学ぶことができ、お子さんの心の成長が見られ、とても大事なことだと思っています。

花畑学園でのICTの取り組みはいかがでしょうか。

【古里委員（都立花畑学園）】

外部専門家からツールについての説明を聞き、その子に合ったものをつくることについて取り組んでいます。

また図書館がICTにつながって、子どもたちが絵本を楽しめるようになっていきます。外部の専門家を入れて、教育現場に合うように取り組んでいます。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。

続いて、保護者のお立場からはいかがでしょう。

【小長井委員（肢体不自由児者父母の会）】

知的部門でいろいろな工夫がされていました。靴箱のところに名前と顔写真が貼ってあり、素晴らしいと思いました。自立心を育むには、とてもいい環境だと思いました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。

【川松委員（ねっとワーキング）】

小谷先生から先ほどお話がありましたが、2月11日はこども部会をきっかけに良い交流ができました。小谷先生と保護者が話せたこともすごく良かったです。こどもと言ってもほとんどが成人しているのですが、学生がとてもいいファシリテートをしてくれたので、交流会で話ができてこういう場がすごく大事だということや、自分たちは社会のことを学生に伝えることができ、学生にも話を聞いてもらってすごく良かった

という声がありました。今後も、本人が大人になって支援が手薄になったときに自立支援や余暇活動という人との交流の場がつけられたらありがたいと思いました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

学生にとっても、上級生のファシリテーターの様子を、1、2年生が見て、学びになったと思うので、今後も続けていけたらと思います。

【川松委員（ねっとワーキング）】

建替え前の学校は知っていましたが、新しくなってから初めて見学しました。とても整備されている環境だと思いました。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

見学をしていろいろな気づきがあり、素晴らしいと思いました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

以前と比べて、在籍している児童・生徒数は増えていますか。

【古里委員（都立花畑学園）】

南花畑特別支援学校の頃は、一学年20人を超えると「多いね」と言っていましたが、今は40人ということで、倍になっています。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

集団は集団のいいところが教育上あるので、ひっぱられるというか、少ないとお手本になる子がいないので、タテのつながりで上級生や下級生を見てとなりますが、ヨコで人数が多いと集団行動という点では、いい面もあると思います。まとまって歩いているのを見ていると、友達と同じ学年を認識して集団で行動できているので、40人いてもそんなに外れる子もない様子でした。

【佐野オブザーバー（うめだ・あけぼの学園）】

就学前のお子さんの支援をしているため、学校に入ってからのお子さんのことを考えながら支援をしています。支援をするスタッフは、学校での生活を思い浮かべながら保護者と一緒に考えてあけぼの学園から送り出しています。花畑学園には多くのお子さんが入学しています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

通常の学級に入学するお子さんも増えていますか。

【佐野オブザーバー（うめだ・あけぼの学園）】

全体としては、毎年60人から80人の年長児がいますが、通常の学級に入学する方、特別支援学級、そして特別支援学校と、かなり幅が広がっています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

就学先については、保護者の方のお考えが強いのでしょうか、それとも就学相談で迷って決められるのでしょうか。

【佐野オブザーバー（うめだ・あけぼの学園）】

就学相談を通して行かれる方と、選ばない方もいます。お子さんにとってどこがいいのか、学校に入ってからのことを考えて、保護者が情報を検討できるように支援をしています。

【河野委員（北療育医療センター・城北分園）】

幼児の通園部門を卒園して、花畑学園に通うお子さんもいますし、大人の通所部門もあるので高等部3年生で卒業して利用する方もいます。距離も近いので、情報共有をしています。今までに何度か施設見学をさ

せていただいて、立派な設備でいいところだなといつも思っています。支援体制もしっかりしていて、保護者も安心してお任せしていると思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

花畑学園以外の肢体不自由の特別支援学校に行くお子さんもいますか。

【河野委員（北療育医療センター・城北分園）】

地域によって、学区が決まっています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

保護者が特別支援学校を選ぶ際には、どのような視点で選んでいるのでしょうか。

【古里委員（都立花畑学園）】

就学前の2歳から3歳のお子さんの保護者も参加できる見学会を実施しています。花畑学園に入学するかどうかは別として、興味がある方にはそういった学校見学会を利用していただいています。うめだ・あけぼの学園を利用している保護者もあけぼのから勧めていただいて、2回も3回も見学して、花畑学園ってどんなところなのかなという情報を前もって得て、考えてくださっています。また、区の就学支援委員会があるので、専門家や教員がお子さんの学びの場としてどこがいいのかを検討する会があります。その結果、「ここがいいのでは」ということを保護者には伝えますが、それで決定ではないので、一つの参考ということになります。さまざまな保護者の方がいらっしゃいました。委員会の判断が『特別支援学校適』という結果になっても、地域のお子さんと一緒に学ばせたいという保護者の方もいます。価値観が多様になっているというのは感じます。センター校として、特別支援学級に『特別支援学校適』のお子さんがある

場合は、こども支援センターげんきの依頼でお子さんの様子を見に行き、教材の工夫や学級の中での配慮事項をお伝えするというのを年間を通してやっています。

【寺山委員（足立つくし幼稚園）】

見学に参加できず残念でしたが、明るくて広くてきれいになってよかったと思いました。幼稚園からは、最近は毎年というほどではないですが、年に一人ぐらいはこちらにお世話になっています。一人ひとりにあった教育を受けることができ、本人だけでなく保護者も感謝しています。施設もとても整備されているので、ますます安心できる環境になっています。もともと先生方も専門性が高く、いろいろなノウハウもお持ちなので、さらに設備が整ってますます安心感が増しました。今、就学の選択肢がすごく広がって、希望するところに入れることが多くなって、保護者のご希望が通るようになり、選択肢が広がるのはよいことだと思います。入学してから連携して、ずっとここにいなければということではなく、途中で転校するなどいろいろと支援をしていただき、よりよい教育環境が提供されるのは心強いと思いました。

進路選択にあたっては悩まれる保護者もいますが、学校を何回もよく見に行って、いろいろ考えて決められているようです。

【石原委員（あやせ保育園）】

コーディネーターの協議会や学校公開等でいつもお世話になっております。足立区の保育園では、4領域の医療的ケアのお子さんの受け入れをしています。小学校は通常学級に入学するお子さんと特別支援学校に入学するお子さんがいます。学校と園とで連携を取りながら、お子さんに合った学

校選びができるように、またスムーズに移行できるように支援しています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

今、公立園に支援の必要なお子さんが集まっているようですね。

【石原委員（あやせ保育園）】

はい、受け入れ人数の枠がないので公立でお預かりしています。療育に通いながら保育園に来ているお子さんもいます。児童発達支援は就学前で終わるため、あとにつながるかどうかはどのようなところがあるのかということのをこの場で情報共有し、つないでいくことができています。入学後に、学校での様子を確認してから放課後等デイサービスを利用するご家庭もあります。そういう点では、これまでと生活が変わるのでご苦労されている保護者もいるようです。特に医療的ケアのお子さんについては、預かってくれるところが限られるためたいへんなようです。

【傳野オブザーバー（東部保健センター）】

保健師は、地域資源を知っておく必要があるので、保護者に紹介するうえで今日は見学できてよかったと思います。花畑学園には去年の秋、水害時福祉避難所開設の訓練のために、会場をお借りしました。その際は、全盲の方と医療的ケアのお子さんを受け入れる訓練をしました。実際にベッドを作ってみると、配置が悪いとか、呼吸器をつなぐ電源がどこにあるとか、やってみないとわからないことがありました。保護者からは、こんな物が必要だ、こんなふうにしてくれたらよかった、といった生の声も聞けました。このこども部会の目的にもありますが、「顔の見える関係づくり」ということや連携ということでは、訓練はと

でも良い機会だったと思います。今日も学校を見学させていただき、ほかの保健師にも伝えたいですし、学校公開等の機会を利用して見てもらいたいと思いました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

区内に東京女子医大ができて、周産期医療センターがあるので、ケアの必要なお子さんが増えているのかなと思いますが、いかがですか。

【傳野オブザーバー（東部保健センター）】

増えているのか、正確なところはわかりませんが、入院していた方が地域に戻ってくるときに、関係機関が集まって今後のことを話し合うことはあります。コーディネートや地域資源の紹介ということで保健師が参加することはあります。

【小谷部会長（東京未来大学）】

中には、愛着形成の課題や、障がいを受け入れられないという保護者もいるかと思いますが、どんな対応をされていますか。

【傳野オブザーバー（東部保健センター）】

基本的には寄り添った支援を行っています。また、お子さんが帰ってくることによって不安が高く、どうしたらいいかと悩まれている方もいます。経験者の方とお話しする機会を設けたこともあります。不安が高い方に、支援は必要だと思います。保健師がこども家庭相談課に相談することもあります。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

こども支援センターげんき所長が欠席のため、オブザーバーとして参加させていただきます。

医療的ケアのお子さんについてですが、いろいろなノウハウがあるので、在宅でやっていけるご家庭がほとんどだと思います。中には困難なケースもあり、児童相談所が

措置したケースもあります。ただ、その先の受け入れの施設がないと聞いています。児童養護施設では対応できない、公的機関がないのが現状と聞いています。今後、どうしていくのかというのは全体として考えていかなければならない課題だと思います。本来的には、保護者に向き合ってもらいたいのですが、実際は難しいケースもあり、社会の動向も見ながら、役所としても考えていかなければならないと思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

今、ショートステイでは、障がいのあるなしにかかわらず、お子さんを預かって、保護者を休ませるということもしています。区としては、障がいのあるお子さんのリスクは高いとお考えですか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

ショートステイは、こどものお泊りで、区内では児童養護施設クリスマスヴィレッジが区の委託で実施しています。保護者のレスパイトを目的としています。身体障がいや知的に重度の方は、ショートステイは、ご利用いただけません。一日の定員が決まっていて、対応する職員は限られているので、その中で対応できる範囲でやっています。発達に特性のあるお子さんが利用することはあります。

【小谷部会長（東京未来大学）】

今、保健センターと子ども家庭支援センターを一つにする動きがありますが、足立区はどうですか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

児童福祉法の中で、こども家庭センターということで、児童福祉と母子保健を一体で運用するようというながれができています。実は、東京をはじめ保健所を市で持つ

ている自治体は同じ悩みを抱えていると思いますが、保健所の中から母子保健だけをはがせるか、という話です。保健センターは地域保健、精神保健、高齢等担当していて、一人の職員がいろいろな業務を担当している中で、母子保健だけ別部門にしてこども家庭相談課と一緒にできるかという、現実的には難しいです。児童福祉法は、保健所を設置していない小さな自治体を想定しているので、そういうところであれば一体にできるけれども、大都市はできないので、今23区はどこも機能設置というかたちで、現存の組織で、母子保健と児童福祉を一体的にやるプロジェクトチームを組んで運用しているのが実状です。今年度当初から、努力義務になっていまして、足立区は出遅れましたが、連携会議等をしながら実体的な運用はできています。あとは形式的な面や不足している部分を検討していずれかの段階でスタートしたいと思います。国は、建物や組織を一体にしろとは言っていない、一体的なサービス提供ができるようにというかたちになっているので、各自治体でいろいろと考えてやっているのが実態です。実は、足立区は平成27年度から一部の保健師を集めて、本庁舎の中に妊産婦支援の特別なチームを作っています。そこと連携しているので、児童福祉法の改正前からモデル的にやっています。

【中澤 事務局】

障がい援護課基幹相談・権利擁護係の中澤です。自立支援協議会の事務局や虐待対応、成年後見制度、相談支援事業所向けの研修等を担当しています。今日は、学校見学から参加しました。昨年一度打ち合わせで来たことがあります、中を見たのは初めて

で、広さにびっくりしました。クールダウンできるスペースがあり、教室の中でホワイトボードに帰りのバスの時間を貼るなどわかりやすい工夫がされていると思いました。昨年、足立特別支援学校で「教育と福祉の連携」をテーマに相談支援事業所ネットワークの研修を実施しましたが、その時には学校の先生方から見た困ったことと相談支援従事者から見た困ったことをグループワークで協議しました。来年度、花畑学園でも研修をさせていただけたらと思いました。

【和田 事務局】

同じ係の和田です。本会議の事務局をしています。いつもありがとうございます。基幹相談の事業の中で、先日のネットワークで「教育と福祉」について企画をしました。おそらく児童は、相談支援が入っていない、セルフプランの方が多くいらして、学校からも「必要です」というお問い合わせや、ご家族からも「相談支援をお願いしたい」とお話があっても、どこの相談支援事業所もいっぱいだからとお断りしなければいけない現状です。課題解決が必要な時にどうすればそのような方へのアプローチができるか、障がい援護や保健センターのフォローアップ等、サービスや支援のはざまでうまくいかなくなり調整が必要な方がいらっしゃいます。今、強度行動障がいのニーズ把握について、成人の方から始めています。そういった個別の相談事例の際に、何かアドバイスができないか、制度が充足しないところを何とかつないでいきたいと、課題をお寄せいただけたらできることを考えて試行的な実施、地域の顔の見える支援体制づくりをしていきたいと考えています。

もう一つ担当しているのが権利擁護、係

は4名の体制ですが、知的・身体障がいのある成人の方の虐待通報、養護者の虐待対応の窓口です。先ほど育てにくいお子さんのお話が出ましたが、保護者側も障がいであったり、精神疾患であったりご自身の育ちの中にもいろいろあったりで、子育てが難しいご家族ということで通報につながる場合があります。国からは、「障がい者に対する偏見や差別のない共生社会の実現に向けた行動計画」が昨年12月に示されました。その中でも、障がいのある方の結婚、出産、子育てについてどのように支援していくかは、こども部会やすべての行政機関に関わってくることで、つながりづくりのようなことをやっていきたいと思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。障がいのある方への支援はいかがですか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

こどもと家庭の相談の窓口からすると、障がいがあったとしても、意識して考えて子育てしようという姿勢がある家庭は何かなっていると思います。サポートをしてもらえばいいとか、こういう時にはヘルプを出せる、自分でも何か工夫しようなど一般の家庭と一緒にだと思います。どんな状況にあったとしても、自分で考えて一步一步プラスにやっていこうという発想は、横から支えるぐらいでやっていけると思います。問題になるのは、そのあたりに考えが至らない家庭、こちらが話していることが伝わりにくい家庭、わかっているのかわかっていないのか改善が見られない家庭やメンタル的にダウンし続けて上がってこられない家庭などです。前を向いて、次どうやって行こうかと常に現状の中で考えて、自分たち

はどう動いたらいいだろう、まわりに声を出しながら、できること・できないことは何だろう、どうやっていくのかと考えることができる家庭は、支援を入れながらやっていけますが、そこに至らない部分が課題なのかなと思います。そういうところに対してどうフォローしていくのか、考えが至らない場合、現行の制度は自己決定なので、決定ができない家庭がどこの機関でも問題になってくるのではないかと思います。

【相澤まり子委員（ハートぽっぽEAST）】

前回のこども部会でも、セルフプランのお子さんが多いという話をしましたが、その方たちの18歳以降を見据えたときにほかの社会資源につながる方法がわからないということがある。うちでもさまざまな事業を実施しているが、どこもいっぱい受け入れができない状態です。それをどこで相談すればいいのか、管理者としてほかを探すといったこともしています。また、外国にルーツのある保護者は、どう制度を使えばいいのかわからず、取り残されているという感じがします。学校の先生方を信頼して相談しているが、孤立して悩んでいる保護者がいると感じています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

障がいもあって、外国にルーツということだとたいへんですね。

【相澤まり子委員（ハートぽっぽEAST）】

やはり、日本の制度がわからないというのが大きいです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

国や文化による考え方の違いもあるようです。花畑学園では、いかがですか。

【古里委員（花畑学園）】

さまざまな国の方がいらっしゃるの、

根本的な考え方の違いがあつて、学校についても毎日通うのがあたり前ではなくて、「今日は休んでもいいか」という感じの方もいらっしゃる。そのあたりについては、お話してみないとわからないです。情報発信していますが、文字が読めないとフォローが難しく、大切なところについては担任に「何度も何度もお伝えして」と言っています。コミュニケーションがなかなか難しいだろうと思います。子育てもヘルプを出すにしても自分から出しづらい部分があるので、担任には「保護者の気持ちの浮き沈みもちゃんと見てね」と話しています。担任も困ったことがあるとコーディネーターや管理職に相談しながら、一人で考えない、ベテランの先生に相談するようと言っています。みんなで考えないとわからないことも多いです。最近では、家庭支援が必要な方が相対的に増えています。放課後等デイサービスの方が、送迎もあるのでご家庭のことは詳しいです。学校は、家庭訪問を今はしていないので、家庭の中がどうなっているのか見えそうで見えません。なので放課後等デイサービスの方と連携しています。学校だけでは対応できないこともあるので、関係機関と連携しています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

保護者の方からして相談しやすいのはどこでしょうか。

【小長井委員（肢体不自由児者父母の会）】

やはり、成長するにつれて、高校卒業後についてがテーマになります。先日高等部の先生から就職後にやめてしまう、離職率が高い、そのまま家にこもる子が多いというお話がありました。そうすると今度それをどこに相談すればいいのか、卒業後は就職

も自分で探さなきゃいけないとすると、車椅子に乗っていると絶対無理だな、そうすると入所するかどこかに通所しないといけないのかな、など卒業が近づくと不安なことが増えます。外国籍の方については、グループで連絡が取れる手立てはしましたが、結局は続きませんでした。交流の難しさは常々感じます。

肢体不自由の学校は、ゆったりしていて手厚く見ていただいているので、卒業後が心配です。

【小谷部会長（東京未来大学）】

18歳過ぎている方の現状をお聞きしてもいいでしょうか。

【川松委員（ねっとワーキング）】

社会適応がよかったので、特例子会社に入りましたが、余暇活動とかフォローがないところなので、最初の1年はどうしよう、放課後等デイサービスもない、余暇活動もないということで、東京都の自閉症協会とつながっているので、先輩の保護者に相談しました。また、あしすともつながっているので相談しました。1～2年模索している間に、コロナになってしまいました。気がついたらいろいろな余暇活動が身近なところにあつて、トランポリンや太極拳などに参加しました。また、放課後等デイサービスでつながりのあるところをスポット的に使わせていただいて、困ったときの資源として使っています。18歳までに積み上げていったところの延長で、特別支援学校の保護者同士の情報交換が重要です。外国籍の方については、音声でいろいろやり取りしていました。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

親の会は、都立の育成会、全国の育成会に

つながっています。5年ほど前から、包括的性教育について取り組んでいます。特別支援学校でも性教育に取り組んでいます。実際に高等部での授業を体験させてもらったところ、支援が必要な時にどうしたらいいのかを教えてもらっています。高等部の子どもたちは「困ったときにどうしますか」と聞かれると、「相談する、大人に相談する、友達に相談する」と知っています。教育がきちんと行われていれば、相談につながりますが、教育を受けていなくて相談につながれず、困った方がたくさんいただろうなということで、早く包括的性教育が実践されることを願っています。

外国籍の方については、足立区は優しくてつながった方はいろいろなサービスが利用できて、素晴らしいなと思います。一方で、バス停で一緒になった保護者は、学校の資料について「漢字が多くて面倒くさい」と見ていないようでした。そうなるかとは保護者同士のつながりですが、保護者がつながらない時代になってしまったので、どうしたものかと思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。

【杉山（障がい福祉センター・事務局）】

花畑学園の学校運営協議会に参加したり、今年度は交流の機会を持っていただいています。施設は、整った環境にあると感じています。クールダウンのスペースなど、作っていききたいなと思います。ニーズの多様化に対応して、園との併用ができるようにしています。保護者の方とのコミュニケーションについては、工夫していききたいと考えています。外国にルーツのある方については、すごく増えているという印象です。同郷の

方がいる場合は、チームになって仲良くなっていますが、そうでない場合もあります。ご夫婦で、夫が日本人、妻が外国人の場合、どうしても大切なお話は夫とすることが多くなってしまい、意思が伝えにくい母親である妻がどう思っているのかというのが気になります。

【浅輪（障がい福祉センター・事務局）】

新しくなって初めて施設を見学しました。さまざまな配慮がなされていてすばらしかったです。通常の学級にも特性のあるお子さんが在籍しているので、各学校にも広がっていくとよいと感じました。

特別支援学校にもスクールカウンセラーはいるのでしょうか。例えば、中学部で不登校になって高等部に進学しなかったという方のご相談を以前受けたことがあったので、どんな支援ができるのかと思っていたので教えてください。

【古里委員（花畑学園）】

スクールカウンセラーはいないので、担任、学年、コーディネーターが校内支援という形でいろいろな機関と連携しながら対応するというのがこれまででした。しかし、教員だけでは対応が難しいこともあるため、来年度からSSW（スクールソーシャルワーカー）が外部専門家として入る予定です。特別支援学校でも不登校のお子さんが増えています。家から出られないお子さんもいて関りが難しいので、教員も学びながら対応していきます。

【小谷部会長（東京未来大学）】

入学時に不登校という子さんもいるのでしょうか。

【古里委員（花畑学園）】

特別支援学級に在籍していて不登校にな

り、特別支援学校なら登校できるのではということで転学してくる場合もあります。長く休んでいると、家から出られなかったり、思春期になっていて自分の意思がしっかり育ってくると、大人が言っても動かないということがあります。オンラインをやったり、楽しいことをしてコミュニケーションをとった上で、放課後登校から始めてうまくいった子もいます。根本的な解決方法がなく、悩んでいます。

【浅輪（障がい福祉センター・事務局）】

区でも不登校に関するさまざまな支援を実施していますが、通常学級のお子さんを対象にしたものが多いため、特別支援学級や学校を対象にした支援も拡充していく必要があると感じました。ありがとうございました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

区内にも、多様な学びの学校ができましたので、選択肢が増えていくといいですね。本人の意思が大事ですね。

【藤ノ木（障がい福祉センター・事務局）】

入所の案内を担当していますが、相談支援事業所がなかなか見つからないという保護者の声をよく聞きます。事業所が足りないのかなと思います。

【山本委員（障がい福祉センター）】

あしすとの紹介ですが、幼児発達支援室では、通所・外来・保育所等訪問支援をしています。特に外来指導のニーズが年々増えています。そのため、指導開始までお待ちいただく期間が長くなっています。本日は、同じ児童発達支援センターである、うめだ・あけぼの学園と城北分園にもご出席いただいていますし、4月には新しいセンターも開所となりますので、必要な時に必要な支援

ができるようにしていきたいと思います。先ほど、あしすとの雇用支援の話が出ましたが、こちらでも年々登録者数は増えていきます。障がい者の法定雇用率が上がってきていますので、企業からの求人も増えていきます。その分、障がい者の方の就労支援もしなければいけませんし、就職した後もご本人のことや周囲の環境もあって、仕事を辞めたいというご相談があったときに、会社に出向いて定着支援もしていますので、かなり業務量が増えています。なかなか知られていないところもありますので、お困りのことがありましたらぜひあしすとをご利用いただければと思います。また、あしすと以外の民間の事業所をご紹介することもできますのでお気軽にご連絡をいただきたいと思います。花畑学園の見学については、いつもご協力いただきありがとうございます。花畑学園には、あしすとの幼児発達支援室を利用していたお子さんが就学して通っています。また、高等部を修了された方が、足立区役所に就職しているという実績があります。今後ともよろしくお願いいたします。

【小谷部会長（東京未来大学）】

みなさま、ありがとうございました。

次年度について、会場のご希望も含めてご意見があればお願いいたします。会場は、次年度も東京未来大学で開催したいと思います。

（傍聴者の感想）

【古里委員（花畑学園）】

余暇活動について、足立区でスポーツコンシェルジュという制度があって、学校でも文化祭に来てもらっています。

【山本委員（障がい福祉センター）】

区のスポーツコンシェルジュについては、

声をかければ来てもらえると思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。

今後、こどもの声を聞く機会が必要ではないかと思います。きょうだい児などの声も聞いていきたいと思います。

（３）事務連絡

【司会】

小谷部会長、委員のみなさまありがとうございました。

会議議事録につきましては、事務局で案を作成いたしまして委員の皆様には後日お送りします。ご確認いただいて、お戻しいただいたものをもとに修正し、足立区ホームページに掲載させていただきます。

事務連絡は以上です。

３ 閉会

【司会】

以上をもちまして、令和６年度第３回足立区地域自立支援協議会こども部会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。お帰りの際にはお忘れ物などないようお気をつけください。